

## 宇宙利用の現在と未来に関する懇談会 第5回会合 議事要旨

### 1. 日時

令和2年9月4日（金） 10:00～12:00

### 2. 場所

内閣府本府庁舎 3階特別会議室

### 3. 配布資料

資料1 石田構成員 提出資料

資料2-1 宇宙利用の現在と未来に関する懇談会報告書案

資料2-2 宇宙利用の現在と未来に関する懇談会報告書案 概要

### 4. 出席者

内閣府特命担当大臣 竹本 直一

内閣府大臣政務官 今井 絵理子

内閣府事務次官 山崎 重孝

構成員（敬称略、※はオンライン参加）

角南 篤（座長）、石田 真康、井上 博文、大貫 美鈴（※）、川添 雄彦、  
重定 菜子、白坂 成功、山崎 直子

スペースオブザバー（敬称略、全員オンライン参加）

岡島 礼奈、尾曲 邦之、川口 剛、倉原 直美、小堀 加奈絵、多屋 公平、  
中ノ瀬 翔、西川 孝典、袴田 武史、樋口 崇則、三原 与周、牟田 梓

ゲストスピーカー

映画監督 押井 守 氏

宇宙開発戦略推進事務局長 松尾 剛彦

宇宙開発戦略推進事務局審議官 岡村 直子

宇宙開発戦略推進事務局参事官 中里 学、吉田 健一郎、川口 悦生

### 5. 議事概要

#### （1）未来ビジョン等について

今井政務官からの挨拶の後、ゲストスピーカーの押井守監督が特別講演を行った。その後、資料1を用いて、石田構成員から Space Biz for SDGs について発表を行った。

#### （2）懇談会報告書案について

資料2-1及び2-2を用いて、事務局より懇談会報告書案について説明を行った。

#### （3）意見交換（○：質問・意見等 ●：回答）

最後に、意見交換を行った。主な意見や質問等は以下のとおり。

- 今後も国が研究開発を主導することに違和感がある。最近、民間が投資を集めて、国がやっていない研究開発に取り組む動きが出ている。相乗効果を生むためには、両方の動きを協働させる必要がある。国の予算だけでやろうとすると、日本は米国や欧州よりも予算が少ないために、進まないことがある。政府主導ではなく、民間と国が一体となって進める枠組、そこに民間が入りやすい仕組みをつくるのが、今後の日本の宇宙開発にとって重要ではないか。はじめから、国と民間の協力体制をつくって進めていくことを打ち出してはどうか。
- ご指摘のとおり、今やオープンイノベーションの時代であり、官の技術と民の技術をできるだけ擦り合わせて、よりよいものを作るのがよい。今後、政府の宇宙関係予算を増やしていきたいと考えているが、それに加えて、民間がビジネスとして取り組む素地をつくらないといけない。  
米国は既に約7割が民間主体。我が国も、ビジネスに乗るような仕組みをつくり、官民が手を携えて促進していくことが大事であろう。その際に、JAXAが政府調達などいろいろな工夫をすることで、民間主導の宇宙産業が我が国産業のフロンティアになると考えている。
- 資料2-2 p.1「宇宙利用の現在」に3つの衛星利用分野が示されているが、現状でも、無重力環境の利用や宇宙食技術を用いた防災食の開発などあるので、衛星利用の事例であることを明記すると、もう少し幅が出るのではないかな。  
p.3「宇宙利用の未来」で「宇宙輸送コスト低下による宇宙ビジネスの拡大・具体化」とあるところは、宇宙輸送コストの低下だけでなく「インフラ整備」という言葉を加えてもらいたい。NASAは、アルテミス計画について、アポロ計画のように単発ではなく、持続可能性のあるインフラを整備し、これによって民間が参入しやすい点を強調している。この点をアピールできたらと思う。  
官と民の連携、そして、宇宙以外の分野の巻き込み、が今後の鍵と考えているので、未来に対するビジョンをもう少し入れると、いろいろな人を巻き込みやすくなるのではないかな。具体的には、宇宙から地球を守ること、それがSDGsなど地上の課題解決につながっていくという思いと、その中で日本は技術や尖った取組によって世界に貢献していく意思、をもう少し打ち出してもよいのではないかな。
- 表現の見直しを検討したい。
- 資料2-2 p.3「宇宙利用の未来」の左上のボックスに「そうした国々と伍していく」という表現があるが、宇宙分野は他産業以上に国際協力を行わないとうまく進まないため、色々な国との連携や海外の巻き込みを目指すのがよいのではないかな。  
また、p.3に宇宙業界用語、技術用語が多用されており、一般の人に理解されないおそれがある。広く国民から見たときに分かりやすいキーワードがあるとよいのではないかな。
- 表現の見直しを検討したい。報告書とは別の話として、本懇談会を受けて、宇宙について理解を深めてもらうための広報媒体を検討する予定である。
- 資料2-2 p.4「ファクターSによる経済社会への貢献拡大・加速」について、「ファクターS」という考えは非常に良いが、宇宙による貢献先が経済社会に限定されていることが残念。経済社会では宇宙による貢献が限定されてしまうので、ウェルビーイングや人類への寄与が目標になることを明確にしてはどうか。
- 宇宙の貢献先を経済社会に限定する必要はないと思うので、修正を検討したい。

報告書の修正は座長に一任され、翌週を目処に報告書を公表することとなった。

(4) 閉会

構成員、スペースオブザーバーからのコメントの後、今井政務官、竹本大臣より閉会の挨拶が述べられた。

以上